

あなたの地域の担い手づくり 最近の研修事業から

（財）電源地域振興センターでは、毎年電源地域の長期的・自立的な振興を担う人材の育成を目的に研修事業を行っています。今年度は二十六件の様々なテーマで、先進事例の紹介など実務的な研修を実施しています。

今回は本年八月九日(火)・十日(水)にかけて当センター研修室で行われました研修No.6「住民と行政が一体となった地域づくりの進め方（「コミュニティ・ビジネス」の活用）」の中から、初日の講義要旨をご紹介します。

（財）電源地域振興センター 研修室で実施される今後の研修（予定）

研修テーマ	研修期日	定員
住民と行政が一体となった地域づくりの進め方（NPOとの協働を考える）	平成18年1月	40名
循環型社会形成に向けた地域づくりを考える	平成18年2月	40名

※講師につきましては、現在、調整をしております。

当日は、北海道から沖縄までの全二十七市町村から定員を上回る五十一名の方が参加され、講義やワークショップ（実務・演習）、事例研究など大変熱のこもった実りの多い研修が実施されました。

【講義】地域を元気にする「コミュニティ・ビジネス」

「コミュニティ・ビジネス」とは

この「コミュニティ・ビジネス」の定義は「自らの地域を元気にする住民主体の地域事業」です。行政や大企業が中心になってまちづくりをするのではなく、住民が主体となって自分たちで事業を起し、地域力の向上を導き出していくことを意味します。

「コミュニティ・ビジネス」は、従来の無償ボランティアとは異なります。小さいながらも経済活動ですので、そこには対価が伴い、責任が生じます。このよい意味での緊張感が継続性をもたらし、



- ① 人間の回復
「自己実現（働きがい）や「生きがいづくり）」
- ② 社会的ネットワークの形成、コミュニティ意識の高揚
- ③ 社会問題の解決
ニーズにあった社会サービスの提供
- ④ 環境負荷の低減、環境保全
- ⑤ 文化の継承・創造
知恵やノウハウの蓄積
- ⑥ コミュニティの多様性や独自の文化を創造
まちの整備
- ⑦ 経済的基盤の確立

【コミュニティ・ビジネス】の規模

「コミュニティ・ビジネス」は、例えば一人の人間が地域の問題に気づき活動することから始まり、そこに人々が集まり、クラブや協同組合などが生まれ、さらに社会的企業へ発展していきます。まさに、行政、企業、市民の各セクターの総力戦です。この中には寄付行為などを行う「後援者」、投資経営に参加する「パートナー」、ボランティアで協力する「支持者」、投資や補助金をあつせんする「銀行家」などが含まれます。

【著書・公職等】

「コミュニティ・ビジネス」単著、中央大学出版部（一九九九年）
「地域を元気にするコミュニティ・ビジネス」編著、ぎょうせい（二〇〇二年）
「コミュニティ・ビジネス起業マニュアル」（共著、二〇〇三年、ぎょうせい）等。
内閣府男女共同参画局女性起業アドバイザーなど多くの公職を歴任。
<http://www.hosouchi.com/>

- ・ 遊休の技術や資源が循環
- ・ 雇用の維持、創出
- ・ 地域に対する投資

ついていけるかが重要で、事業として取り組むには、企業的经营感覚が必要になってきます。そのためには、ワーカーとマネジャーを分けて育成したり、マネジャーを公募するといったことも必要です。マネジャーは、補助金や寄付金の獲得なども行い、収益事業としての確立を図ります。

このほか、協働による起業や複数の事業による収支バランスの調整、自治体や企業などの積極的なアウトソーシングも成功への重要な要素となります。まずは三年なり五年と一定期間を決めて、一生懸命やってみることで、結果が出なければ、撤退・見直しをするといった決断の潔さよさも必要です。

地域の問題や課題解決のために実施している活動の意味から、得られた余剰利益は地域に還元されなければなりません。また事業が成長しても売上高、従業員数は適正規模で継続させます。コミュニティ・エリアは二十分以内で集まれる中学校区ぐらいがちょうどよいかと思えます。職住近接で顔の見える関係の中で等身大の活動や事業をどれほどつく

第十六回「電気のあるさとじまん市」を開催します

「第十六回 電気のあるさとじまん市（主催：財）電源地域振興センター」を十一月十八日(金)から二十日(日)までの三日間、今年も千葉市の幕張メッセにおいて開催します。

「電気のあるさとじまん市」は、電源地域市町村が果たしている社会的役割および豊かな自然や文化を広く紹介するとともに、各地域の特産品の販路拡大や電力消費地との交流促進による電源地域の産業育成・強化の支援を目的に、毎年開催しているものです。

今年度は、二百十九市町村の参加が予定されており、会場内には特産品の展示即売および各地じまんの食べ物・飲み物をその場で味わえる実演販売、郷土芸能を披露する「じまんステージ」などのほか、出展市町村への交流促進のための観光PRコーナーも開設します。ぜひこの機会に電



昨年の「電気のあるさとじまん市」会場風景

源地域についていっそう知っていただき、また、各地の特産品や郷土芸能に触れてください。入場は無料です。皆さまのお越しをお待ちしています。

■お問い合わせ先
（財）電源地域振興センター内
電気のあるさとじまん市事務局
03-5562-9812
e-mail: jiman-ichi@div.dengen.or.jp
<http://www.jiman-ichi.com>

企業の誘致・立地促進を支援します

（財）電源地域振興センターでは、電源地域における企業立地などを支援しています。

まず、企業に対しては、各種イベントへのブース出展や企業説明会などを通じて電源地域における立地環境や支援制度情報を総合的に提供しています。また、立地意向のある企業に対しては直接訪問し、候補となる電源地域が用意する優遇措置や事業環境等のPR、工業団地情報の提供を行っています。

自治体に対しては、最新の企業立地意向や業界の動向を踏まえ、企業ニーズに合った立地環境整備を図っていたり、製造業を中心とする企業を三万社を対象とする企業の地方立地意向調査を実施し、分析・整理の上で情報提供を行っています。

さらに、特定市町村の要望に基づき企業誘致方針を検討する「企業導入実行計画調査」なども実施しています。

このほか、電源地域への誘致活動資料として「電源地域工業団地ガイド」を発行するとともに、企業の希望条件に合った団地の検索ができるサイトを当センターのホームページ上で公開し、広くPRしています。

■お問い合わせ先
（財）電源地域振興センター 人材育成課
03-5562-9810
e-mail: linzai@div.dengen.or.jp

■お問い合わせ先
（財）電源地域振興センター 企業誘致室
03-5562-9714
e-mail: yuuchi@div.dengen.or.jp



見本市会場における出展ブースと説明の風景

人事往来

経済産業省(8月~9月分)抄

●平成17年8月8日付

氏名	(新)	(旧)
草桶 左信	貿易経済協力局資金協力課長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課長
後藤 収	資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課長	内閣府企画官(政策統括官(科学技術政策担当)付)参事官(原子力担当)付

●平成17年9月6日付

氏名	(新)	(旧)
松永 和夫	大臣官房総括審議官	原子力安全・保安院長
広瀬 研吉	原子力安全・保安院長	物質・材料研究機構理事
薦田 康久	原子力安全・保安院審議官(原子力安全・核燃料サイクル担当)	大臣官房地域経済産業審議官
塚本芳昭	四国経済産業局長	経済産業政策局地域経済産業グループ立地環境整備課長
寺坂 信昭	原子力安全・保安院次長	大臣官房審議官(経済産業政策局担当)
井田 久雄	文部科学省(大臣官房審議官(研究開発局担当))	原子力安全・保安審議官(原子力安全・核燃料サイクル担当)
江越 博昭	大臣官房付・辞職	四国経済産業局長
三代 真彰	大臣官房付・辞職	原子力安全・保安院次長

電源立地都道府県知事(8月~9月選挙分)

県名	氏名	当選月日
茨城	橋本 昌	9月12日

電源地域市町村首長(8月~9月選挙分)

市町村名	氏名	当選月日
犀川町(福岡)	白石 春夫	8月 7日
印南町(和歌山)	久保井 始	8月 7日
塩山市(山梨)	田辺 篤	8月 7日
隼人町(鹿児島)	津田和 操	8月16日
安芸市(高知)	松本 憲治	8月21日
本別町(北海道)	高橋 正夫	8月22日
白川町(岐阜)	今井 良博	8月23日
山内村(秋田)	佐藤 繁	8月23日
松山町(山形)	松ノ木 藤正	8月23日
高浜市(愛知)	森 貞述	8月28日
美濃加茂市(岐阜)	渡辺 直由	8月28日
北川町(宮崎)	染矢 俊一	8月28日
仁淀川町(高知)	藤崎 富士登	8月28日
西尾市(愛知)	中村 晃毅	9月 4日
いわき市(福島)	柳田 一男	9月11日
東海村(茨城)	村上 達也	9月11日
広川町(和歌山)	白倉 充	9月11日
十和村(高知)	酒井 節夫	9月12日
士別市(北海道)	田崎子 進	9月18日
志賀町(石川)	細川 義雄	9月20日
知多市(愛知)	加藤 功	9月25日
下郷町(福島)	湯田 雄二	9月25日
北橋村(群馬)	木村 栄一	9月27日

ふるさとびまん

国の伝統的工芸品！ 鳴子こけしと鳴子漆器

宮城県 鳴子町

鳴子町は宮城県の北西部に位置し、千年以上も前から湯治場と栄えてきた温泉の町です。四季の変化を楽しめる鳴子峡や日本有数の酸性湖「濁沼」など見どころも多く、訪れる人々の心を魅了しています。

鳴子町では、豊かな自然に恵まれた暮らしの中から、これまでになくさんの手作りの品が生み出されてきました。中でも「鳴子こけし」と「鳴子漆器」は、国の伝統的工芸品に指定されており、毎年九月の第一土・日曜日に「全国こけし祭り」、「鳴子漆器展」が開催され街中が賑わいます。

「鳴子こけし」は宮城伝統こけしの一つで、首を回すとキュキュと鳴り、胴がどっしりとして清楚で優しいな表情が特徴です。こけしは東北地方の温泉地を中心に、厳しい氣候風土から生まれ、子どもたちの健やかな成長を願い木地師たちによって作られてきました。現在でも数多くの工人達が伝統を守りながら表情豊かなこけしを作っています。



鳴子漆器



鳴子こけし

また、「鳴子漆器」は江戸時代の寛永年間の創業と伝えられ、岩出山藩主伊達家の家臣を京都に派遣し、塗りの技術を修得させたことから始まったといわれています。現在は櫛をはじめ、枺、桑などを材料に椀、盆、膳を作っています。「鳴子漆器」の塗りの手法としては、伝統的技法を生かした木地呂塗りや拭漆塗りをはじめ、変わり塗りともいわれる竜文塗りなどがあります。

■お問い合わせ先

鳴子町役場 観光農林課
0229-821-2026
<http://www.town.naruko.miyagi.jp/>

ふるさとびまん

厳選 北信州木島平産 丸大豆醤油とヤーコン焼酎！

長野県 木島平村

丸大豆醤油は、有機減農薬栽培の木島平産大豆と小麦、村内の内山地区の名水「龍興寺清水」を主原料としており、天日塩とともに七尺の杉おけで仕込むという伝統的な技法で、冬の寒い時期から長期にわたって天然熟成した醤油です。木島平の清らかな空気と肥沃な大地が生み出す厳選素材、そして匠の技の絶妙なコラボレーションを是非お試しください。

また、丸大豆醤油とともに、人気を博しているのが、ヤーコン焼酎です。ヤーコンは、南米アンデス地方原産の植物で草丈一・五メートルになるキク科の野菜です。比較的病害虫に強く、無農薬(土壌消毒・除草剤も不使用)で栽培しています。中にはさつまいもに似た芋ができて、シャキシャキした梨のような食感です。フラクトオリゴ糖、食物繊維、ポリフェノールを豊富に含んでいますので、腸内の善玉菌を増やし、腸を活性化させ便通の改善に効果があるといわれています。生食はもちろん

ん、煮物、揚げ物、野菜ジュースなど調理法はさまざまです。木島平村では、三年ほど前からヤーコンの栽培を始めており、この地中にできるヤーコン芋を原料にして本格焼酎「ヤー魂」(乙類)を、魂を込めて作っています。さっぱりした飲み口と、ほのかに香る甘い香り

■お問い合わせ先

木島平村役場
産業課有機の里推進係
0269-821-3111
<http://www.kijimadaira.jp/>



丸大豆醤油
1ℓ 470円(税込)

ヤーコン焼酎
720ml 1,260円(税込)
1.8ℓ 2,310円(税込)

当センター事業をご利用いただける電源市町村が確定

(財)電源地域振興センターの事業をご利用いただける電源市町村が、このほど確定いたしました。事業の対象となる電源地域は、建設準備中・工事中・運転中の発電所などが所在する市町村とその周辺市町村です。平成十七年四月現在、このような電源地域は、全国に九百十八あり、全市町村の約四割を占めています。事業がご利用いただける具体的な市町村についてのお問い合わせは下記までお寄せください。

電源地域の主な要件

	認可出力	範囲	工業集積度
原子力	35万kw以上	所在市町村およびその周辺市町村	8未満
水力	1千kw以上	所在市町村	
地熱	1万kw以上	所在市町村およびその周辺市町村	
火力(沖縄県に限る※)	8万kw以上	所在市町村およびその周辺市町村	

※平成15年改正前の発電用施設周辺地域整備法(旧整備法)により地点指定されている火力発電施設(沖縄県を除く)の所在市町村およびその周辺市町村は引き続き対象。

読者プレゼント

今号の「電源地域のサクセスストーリー」でご紹介した鹿児島県阿久根市の文旦(二個一箱)を、取材先のご厚意により五名様プレゼントいたします。とじ込みのアンケートハガキに本紙へのご意見、ご感想などをご記入の上、十一月三十日(消印有効)までにお送りください。なお、当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。



(商品イメージ)

(財)電源地域振興センター会長 交代のお知らせ

平成十七年六月二十九日開催の第三十七回理事会において、勝俣恒久理事(電気事業連合会会長)が第七代会長に就任いたしました。



会長 勝俣 恒久

【編集後記】

「電気のあるさと」には、豊かな自然、山海の幸、由緒ある伝統文化、そして何よりもこれらの資源をひたむきに守り続けている人々があります。そして、各地域が試行錯誤を繰り返しながら、「地域活力の向上」に全力で取り組んでいます。今号の特集でご紹介した鹿児島県阿久根市、京都府美山町の皆さまもそういった方々です。取材に対しては悠然と応えていただきましたが、無から有を生み出し、さらに点を線に変えていくのは、本当に強い信念がなければできないことでしょう。皆さま、ありがとうございます。

本誌では、皆さまの町の地域振興に関する話をお待ちしています。これからの試み、成功、失敗など、どんなことでも結構です。そして読んだ方が何かヒントを得られるような誌面になるよう私たちが精一杯頑張りたいと思います。(K)